日本工学院八王子専門学校	開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	リハビリテーション医学2	
科目基礎情報					
開設学科	鍼灸科	コース名		開設期	後期
対象年次	3年次	科目区分	必修	時間数	30時間
単位数	2単位	授業形態	講義		
教科書/教材	学校協会指定教科書 医歯薬出版 リハビリテーション医学				
担当教員情報					
担当教員	鈴木 哲郎	実務経験の有無・職種	無		
学習目的					
鍼灸師として必要なリハビリテーションの知識、方法について学ぶ。現在では広い意味でのリハビリテーションに関わることが多くなってきている。単に疾病に対する治療だけではなく、障害から社会復帰までの知識や技術を身に付けることを目的とする。病院との連携に必要なリハビリテーションに関する知識や用語を理解することを目的とする。					
到達目標					
リハビリテーションの目的は「人間らしく生きるための権利の復権」と言える。そのためには、医学的、教育的、職業的、社会的な分野に分けている。その中で特に医学的リハビリテーションを扱うが、リハビリテーションの全体の関連性を把握して学ぶことが重要である。従って、前期はリハビリテーションの理念、リハビリテーション医学の理念と方法を中心に授業を進め、後期はその総論的理解に基づいて種々の障害に対するリハビリテーションの具体的特徴を理解する					
教育方法等					
授業概要	講義方式で行う。黒板に授業の要点を板書するので、板書したことに加えて、講義を聴きながら自分なりに説明等を加えてノートをとるようにすること。授業後ノートをみて復習うこと。また、授業の終わりに、次回の講義で扱う教科書のページおよび内容を伝えるので教科書を読み予習をする。				
注意点	授業日数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。講義時間に無連絡で20分以上遅れた場合、受講はできないが出席の扱いをしない。明確な理由が無い早退は出席したとは認めない場合がある。 課題は、本科の規則に従った形式で提出する。特定の指示が有る場合を除いて、手書きでの作成を原則とする。				
評価方法	種別	割合	備 考		
	試験・課題	100%	期末試験（筆記試験）		
	小テスト	0%			
	レポート	0%			
	成果発表 （口頭・実技）	0%			
平常点	0%				
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	脊髄損傷のリハビリテーション(1)	脊髄損傷（四肢麻痺・対麻痺）の概念、機能障害を理解する			
2回	脊髄損傷のリハビリテーション(2)	脊髄損傷のリハビリテーションの実際（急性期、回復期、維持期）および社会復帰のケアとリスク管理			
3回	切断のリハビリテーション	切断患者のリハビリテーションを理解する さらに、リハビリテーション工学の発展と義肢・装具におけるリハビリテーションの応用も理解する			
4回	小児のリハビリテーション(1)	小児のリハビリテーションの特徴を理解する			
5回	小児のリハビリテーション(2)	小児麻痺のリハビリテーションにおける早期発見・早期治療を理解する			
6回	骨関節疾患のリハビリテーション(1)	「五十肩」、「頸腕障害」「腰痛」のリハビリテーション（評価と具体的方法）について理解する			
7回	骨関節疾患のリハビリテーション(2)	変形性関節症（膝関節、股関節）のリハビリテーションでは保存的治療と外科手術のリハビリテーションがある 大腿骨頸部の骨折の予防とリハビリテーションを理解する			
8回	骨関節疾患のリハビリテーション(3)	種々のスポーツにおける障害の特徴を理解し、スポーツ障害のリハビリテーションの実際を理解する			
9回	関節リュウマチのリハビリテーション	関節リュウマチの病理、評価方法を理解し、リハビリテーション（具体的方法）を理解する			
10回	抹消神経障害のリハビリテーション	末梢神経障害を理解し、リハビリテーション具体的方法を理解する			
11回	パーキンソン病のリハビリテーション	パーキンソン病の特徴とそのリハビリテーションについて理解する			
12回	呼吸器疾患のリハビリテーション	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患および拘束性疾患）のリハビリテーションを理解する			
13回	心疾患のリハビリテーション	心疾患（特に冠状性心疾患を中心に）の障害とリハビリテーションについて理解する			
14回	まとめ（1）	これまでの授業を踏まえて、リハビリテーションにおける鍼灸治療の貢献について理解する			
15回	まとめ（2）	授業で取り上げた障害に対するリハビリテーションを総括し、糖尿病、高脂血症、肥満等に対する予防的リハビリテーションについても理解をする			